

# 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

## 報告書資料 一般 - 13

学校名・団体名	新宿区立落合第六小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	学びを変える 創造活動の展開と学びの「見える化」の推進

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 活動の目的

- ・実社会とつながるコンピテンシー・ベースの企画力・実行力を含む学力の育成
- ・思考し、コミュニケーションを行い。柔軟に集団の意思の交流や価値の創造等を目指すグラフィック・レコーディング等を用いての学びの「見える化」を習得と活用

#### 2 活動経過・特色

##### (1) おちろくDASH（縦割り創造活動）

○縦割り班で、「地域を豊かにする」ことを目的に、それぞれが取り組む内容を決め、1年間にわたり地域や保護者を巻き込んで企画・実践する活動（全32時間）



企画・検討



地域（マイスター）との協議



準備



保育園に向かいでの交流

- ・2年目の今年度は、「祭り」「オリンピックの宣伝」「エコバックづくり」「学校の野菜・果樹を用いての料理でのおもてなし」など、多彩な実践が行われ、発表会となった3月2日（土）のオープンスクールには、300名を超える来場者が入場

- ・方向性やゴールが決まるまで何度でも意見を出し合うため、活動に移るまでに、10時間以上を費やす班もあり、教員の指導は最小化。その分、活動や発表の時は、見違えるほど自信をもって、のびのびと活躍。

##### (2) 縦割り全校遠足（下見6時間+実施5時間）

○高学年の運営する力を育成するために、企画から下見、当日の進行までを、児童がツアーコンダクターのように活動を先導

○下見から実施に際しては、全校に向けてプレゼンを実施し、総選挙を行ったうえで4か所に選定



下見地をプレゼン



総選挙の集計



目的地に移動



目的地で記念撮影

- ・ラッシュ時の移動や全校での移動距離・時間を考慮すると、行先がマンネリ化してきて、見直しを迫られ大胆に改革。児童の企画・リードによって目的地4か所を選定して実施
- ・企画力やプレゼン力もねらい、下見は六ヶ所。生き残るのは4か所の縦割り遠足総選挙を実施、それを保護者・地域に公開
- ・下見・本番共に、教員が手薄となるため、保護者にボランティアで引率を募集。2年目の今年は10名を超える申し出があり、保護者にも好評

### (3) グラフィック・レコーディングの導入（全校2時間+高学年8時間・職員6時間）

○現在、企業の経営推進部門や営業企画担当部署で注目され、盛んに導入が図られ始めたグラフィック・レコーディングを導入。児童の思考の柔軟性の向上と話し合いの効率化や目的の共有など、様々な期待を込めたプランを計画・実践

○小学校では前例がない実践ながら、成果に大きな期待。今後、教育界においても、十分な可能性を期待



全教員向け研修



レッツ グラ・レコ



専門的研修



全校お絵かきワークショップ



授業で児童が活用



高学年用ワークショップ

- ・単なる板書を書き写す学習形態やノート使用を変革、ブレインストーミングの活性化、ミニホワイトボードの大量活用等、教師主導から児童主体への変革は成果大

### 3 成果と課題

○社会の変化や日々更新される知識や技能は、固定化した教科書の内容の伝授だけでは対応は困難であることを認識し、社会に適合する特色ある教育活動の推進を実践に移した。児童主体という言葉だけが横行しがちな教育展開を、「じっと待つこと」「任せること」「あえて失敗させること」によって、児童は呪縛から「解放」され、のびのびと学びを楽しんでいる。

○取り組むうちに生じるマンネリ化やレベルの向上へのサポートを、教員がいかに取り組むかが課題。

○グラフィック・レコーディングをはじめ。様々な手法の導入と、小・大学連携、企業連携を拡充。

○本校の実践をさらに発展させるために、平成31年度から文部科学省 教育課程特例校の指定を受け、本報告書記載した内容を中心に「みらい科」として創設。2020年度には、全国発表を予定